

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

喜多方市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査目的

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ③ 教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立に役立てる。

(2) 調査実施日

令和4年4月19日（火）

(3) 調査内容

※ 令和元年度調査より、従来のA問題（知識）とB問題（活用）を一体的に問う形で実施となっている。

※ 学力調査の実際の問題については、国立教育政策研究所のウェブサイトをご覧ください。<https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

① 教科に関する調査：（ ）内は問題数

ア 小学校：国語（全14問） 算数（全14問） 理科（全21問）

イ 中学校：国語（全14問） 数学（全14問） 理科（全21問）

② 質問紙調査

ア 児童生徒質問紙：児童生徒に対する調査

（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

イ 学校質問紙：学校に対する調査

（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備等に関する調査）

(4) 調査対象

① 小学校：16校（6年生：294名）

※ 4月19日（火）以外の実施校については、参考値とする。

② 中学校：7校（3年生：331名）

2 調査結果の公表について

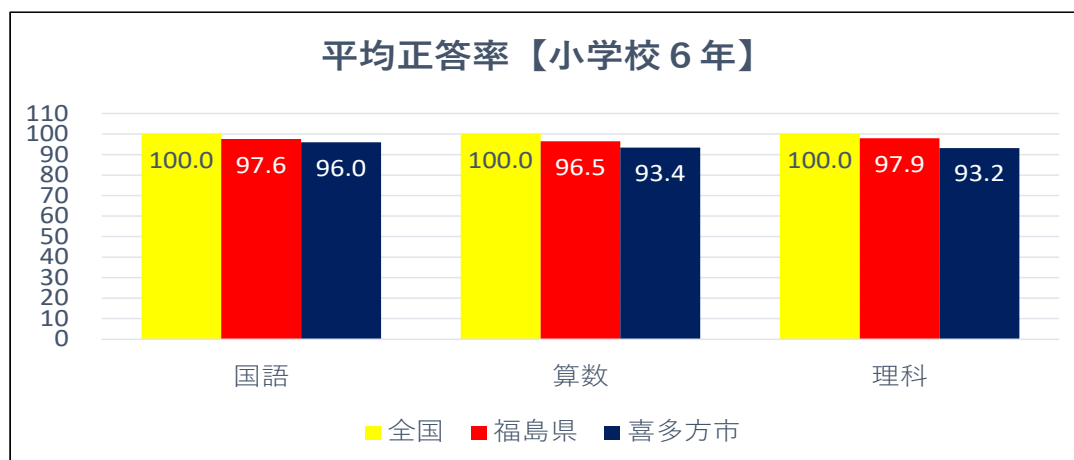
(1) 本市全体の教科別平均正答率及び市内各小・中学校の教科別平均正答率を公表する。平均正答率は、各教科の問題数に対する正答数の割合を示した値であり、全国の平均正答率（100に換算）に対して、本市全体並びに市内各小・中学校がどの程度達成できているかを数値で示す。

(2) 教科別の結果（概要）と課題及び改善策

(3) 質問紙調査の結果と改善策（本市の特徴を表す項目を抜粋）

3 調査結果

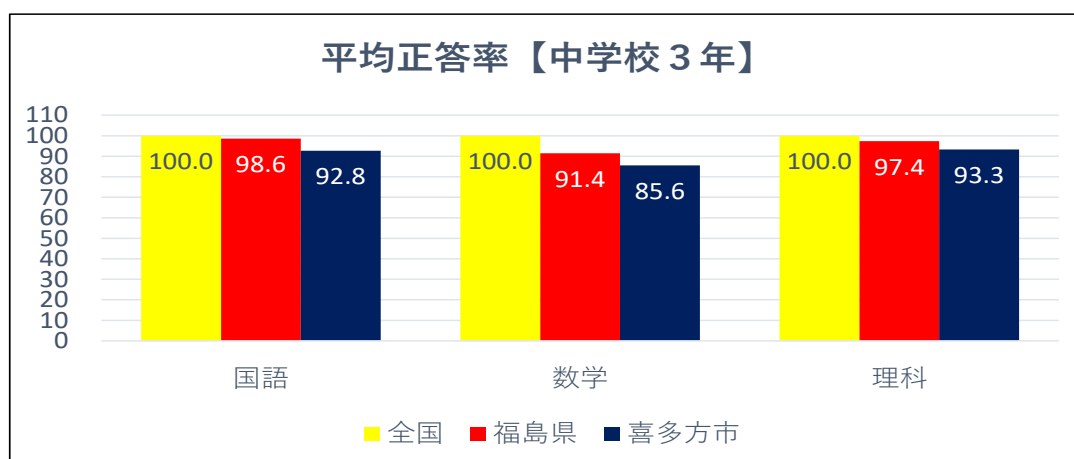
(1) 小学校 6 年



小学校 6年	教科	国語	算数	理科
	全国	100	100	100
	福島県	97.6	96.5	97.9
	喜多方市	96.0	93.4	93.2

※ 全国平均を 100 に換算して算出

(2) 中学校 3 年



中学校 3年	教科	国語	数学	理科
	全国	100	100	100
	福島県	98.6	91.4	97.4
	喜多方市	92.8	85.6	93.3

※ 全国平均を 100 に換算して算出

(3) 各教科における本市の特徴

① 小学校6年 (○ 全国を上回っている主な内容 ▲ 課題となる主な内容)

<p>国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中 心を捉えること。 ○ 表現の効果を考えること。 ○ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付け ること。 ○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。 ▲ 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えること。 ▲ 登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること。 ▲ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
<p>算数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすること。 ○ 示された場面において、目的に合った処理の仕方を考察できること。 ○ 百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること。 ▲ 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解 していること。 ▲ 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量 の求め方と答えを記述できること。 ▲ 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目 し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できること。
<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昆虫の体のつくりを理解していること。 ○ メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けていること。 ○ 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの 道筋を構想し、自分の考えをもつこと。 ○ 観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ こと。 ▲ 日光は直進することを理解していること。 ▲ 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、 自分の考えを持つこと。

② 中学校3年 (○ 全国を上回っている主な内容 ▲ 課題となる主な内容)

<p>国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文脈に即して漢字を書くこと。 ○ 助動詞の動きについて理解し、目的に応じて使うこと。 ○ 漢字の行書の読みやすい書き方について理解すること。 ○ 場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈すること。 ○ 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解すること。 ▲ 自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと。 ▲ 表現の技法について理解すること。 ▲ 行書の特徴を理解すること。 ▲ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。
<p>数学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。 ○ 多数の観察や多数回の施行によって得られる確率の意味を理解していること。 ▲ 自然数を素数の積で表すこと。 ▲ 一次関数の変化の割合の意味を理解していること。 ▲ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明すること。 ▲ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること。
<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子モデルで表した図を基に化学反応式で表すこと。 ○ 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈すること。 ▲ 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明すること。 ▲ 化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈すること。

(4) 質問紙調査の結果

① 児童質問紙

肯定的回答 1	当てはまる
肯定的回答 2	どちらかといえば、当てはまる
否定的回答 3	どちらかといえば、当てはまらない
否定的回答 4	当てはまらない

ア 肯定的回答の割合が県と全国を上回り、否定的回答の割合が県と全国を下回るなど、本市としてよい傾向が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比 較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(46)	学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	喜多方市	36.8	46.7	14.1	2.4
		福 島 県	35.3	44.1	15.9	4.6
		全 国	30.5	43.0	20.2	6.2
(58)	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	喜多方市	46.4	38.1	12.4	3.1
		福 島 県	46.2	36.5	13.5	3.7
		全 国	44.9	35.5	14.8	4.7

上記以外にも、「(9)将来の夢や希望を持っていますか」「(14)困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」「(17)自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「(30)地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「(48)道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の項目においてよい傾向が見られた。

イ 肯定的回答の割合が県と全国を下回り、否定的回答の割合が県と全国を上回るなど、本市として課題が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比 較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(26)	読書は好きですか	喜多方市	30.9	29.6	27.8	11.3
		福 島 県	37.3	33.9	18.7	9.9
		全 国	41.9	31.2	16.7	10.0
(66)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	喜多方市	12.0	13.1	25.1	49.8
		福 島 県	11.4	13.5	27.4	47.6
		全 国	13.1	13.5	26.2	47.1

上記以外にも、「(1)朝食を毎日食べていますか」「(4)携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」「(25)新聞を読んでいますか」「(32)5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」の項目において課題が見られた。

② 生徒質問紙

ア 肯定的回答の割合が県と全国を上回り、否定的回答の割合が県と全国を下回るなど、本市としてよい傾向が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比 較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(18)	友達と協力するのは楽しいと思いますか	喜多方市	67.0	29.4	3.3	0.3
		福 島 県	66.9	26.8	4.7	1.4
		全 国	66.2	27.5	4.8	1.4
(51)	国語の授業の内容はよく分かりますか	喜多方市	33.6	51.2	14.2	0.9
		福 島 県	31.3	50.3	15.1	3.2
		全 国	31.9	49.3	15.1	3.5
(53)	数学の勉強は好きですか	喜多方市	34.8	30.9	22.4	11.8
		福 島 県	29.8	28.8	24.9	16.4
		全 国	29.9	28.2	24.3	17.5

上記以外にも、「(9)将来の夢や目標を持っていますか」「(36)学習の中でPC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」「(48)道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」「(56)数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「(58)数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法で考えますか」の項目においてよい傾向が見られた。

イ 肯定的回答の割合が県と全国を下回り、否定的回答の割合が県と全国を上回るなど、本市として課題が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比 較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(66)	将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか	喜多方市	7.9	13.6	28.5	50.0
		福 島 県	7.6	14.4	30.3	47.7
		全 国	8.0	14.1	28.9	48.8

上記以外にも、「(25)新聞を読んでいますか」の項目に課題が見られた。また、「(33)学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか」「(35)学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使っていますか」の項目において、ICT 機器を使用する頻度が全国や県に比べて低い傾向があり、課題が見られた。

③ 学校質問紙【小学校】（回答者：小学校教員）

ア 肯定的回答の割合が県と全国を上回り、否定的回答の割合が県と全国を下回るなど、本市としてよい傾向が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(7)	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	喜多方市	62.5	25.0	12.5	0.0
		福島県	44.0	42.2	12.6	1.3
		全国	42.0	45.2	11.1	1.6
(19)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	喜多方市	56.3	43.8	0.0	0.0
		福島県	55.3	41.1	3.6	0.0
		全国	54.4	43.3	2.2	0.0
(28)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	喜多方市	31.3	68.8	0.0	0.0
		福島県	25.2	71.5	3.3	0.0
		全国	34.5	62.3	3.1	0.0
(75)	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域のひととの協働による活動を行いましたか	喜多方市	37.5	43.8	18.8	0.0
		福島県	22.1	41.1	29.3	7.2
		全国	27.7	43.1	21.5	7.6

イ 肯定的回答の割合が県と全国を下回り、否定的回答の割合が県と全国を上回るなど、本市として課題が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(11)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童が相談したいときに相談できる体制になっていますか	喜多方市	18.8	43.8	31.3	6.3
		福島県	41.9	41.4	12.3	4.4
		全国	50.5	37.9	9.4	2.1
(58)	コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか	喜多方市	6.3	6.3	50.0	37.5
		福島県	33.4	39.6	16.7	10.3
		全国	33.7	35.6	15.7	15.0
(71)	令和 3 年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	喜多方市	0.0	37.5	50.0	12.5
		福島県	11.6	38.0	35.5	14.9
		全国	11.9	32.6	33.4	22.0

上記以外にも、「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」や「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」の項目では、肯定的割合が全国や県に比べて低くなるなど、指導上の課題であると認識している教員が多い結果となった。

④ 学校質問紙【中学校】（回答者：中学校教員）

ア 肯定的回答の割合が県と全国を上回り、否定的回答の割合が県と全国を下回るなど、本市としてよい傾向が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(8)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	喜多方市	71.4	28.6	0.0	0.0
		福島県	46.5	53.1	0.5	0.0
		全国	50.9	47.6	1.4	0.0
(9)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全体で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	喜多方市	57.1	42.9	0.0	0.0
		福島県	33.8	58.2	8.0	0.0
		全国	43.5	50.8	5.4	0.1
(71)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	喜多方市	42.9	57.1	0.0	0.0
		福島県	20.7	64.8	13.6	0.9
		全国	18.6	61.1	19.3	0.9
(73)	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	喜多方市	57.1	28.6	14.3	0.0
		福島県	14.1	33.3	38.5	14.1
		全国	16.8	39.0	31.8	12.3

イ 肯定的回答の割合が県と全国を下回り、否定的回答の割合が県と全国を上回るなど、本市として課題が見られた項目

番号	質問事項（一部要約）	比較	肯定的回答		否定的回答	
			1	2	3	4
(19)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	喜多方市	14.3	71.4	14.3	0.0
		福島県	42.7	53.1	4.2	0.0
		全国	40.0	52.7	7.2	0.0
(21)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	喜多方市	14.3	42.9	42.9	0.0
		福島県	13.6	58.7	27.2	0.5
		全国	16.6	56.4	26.7	0.3
(30)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	喜多方市	0.0	57.1	42.9	0.0
		福島県	11.3	74.6	14.1	0.0
		全国	20.7	67.5	11.7	0.0

上記以外にも、学級やグループでの話し合いなどの活動において、「相手の考えを最後まで聞くこと」や「自分の考えを深めたり、広げたりすること」の項目では、肯定的割合が全国や県に比べて低くなるなど、課題が見られた。

また、タブレットの授業や家庭での活用については、学校間で二極化の傾向が見られたため、改善が必要である。

4 教育委員会としての取組

- (1) 【継続】指導訪問や授業改善訪問の機会を生かした直接的な指導助言
- (2) 【継続】授業におけるタブレット等、ICT機器の積極的な活用による「個別最適な学び」の実現
- (3) 【継続】各小・中学校における「読解力育成確認テスト」（本市独自のリーディングスキルテスト）の積極的な運用
 - ① 「読解力育成確認テスト」による実態把握の推進
 - ② リーディングスキルの向上を意識した学習活動（教師の働きかけ）の推進
- (4) 【令和4年度より新規】市学校教育指導委員会の効果的な運用
 - ① 市内すべての中学校から数学科担当者1名を必ず選出
 - ② 「学びの共同体」をテーマとした授業改善
 - ア 学習が苦手な児童生徒に「新しい気づきや発見を！」
 - ヴィゴツキーが提唱した「発達の最近接領域」を意識した授業展開
 - イ 「一人も独りにしない」授業の創造
 - 東京大学名誉教授：佐藤学氏が提唱する「協同的な学び」の実践者としての自覚
- (5) 【令和4年度より新規】授業改善訪問サポート（算数科・数学科限定）
 - ① 授業者との事前の意見交換（授業改善訪問では、市教委の担当指導主事が事前研究会前に学校を訪問し、授業者と授業づくりについて意見を交換する。）
 - ② 指導主事要請手続きの簡略化（学校や授業者からの要請があれば、何度でも訪問する。）
- (6) 【継続】総合学力調査（ベネッセ）の活用
 - ① 第2回学力向上研修会におけるベネッセ担当者からの分析結果報告（市全体）
 - ② 市全体の分析結果報告を受けた自校の結果分析と授業改善の推進
- (7) 【継続】各小・中学校におけるコミュニティスクール（CS）の活性化
 - ① 児童生徒の学力向上に向けた部会の創設
 - ② 調査結果と数値による目標の共有と連携